【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和７年度村学力調査では、「話を聞く」ことで８％、「文章を書く」ことで１３％、全国平均から下回り課題が見られた。そのため、相手の話をよく聞いて理解すること及び自分の考えや思いを適切な表現で書く力を高めていく必要がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容

・記載なし

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

・ペアやグループなどで話し合う機会を増やす。

・文章構成の仕方について、繰り返し確認しながら、自分の考えや経験したことを文章で書く経験を増やす。

・他教科や家庭学習と連携させ、学んだことを様々な場面で生かすことができるようにする。

【活用が必要な児童への手だて】

・話し合い活動では、司会などの役割を設け、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを聞き出すことができるようにする。

・話し合い活動を通して分かったことや考えたことについて書いたり、発表したりする機会を設ける。

・友達の文章を読んで、気付いたことや考えたことを伝える機会を設ける。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

① 話し合う機会を多く設定し、分かったことや考えたことを書いたり、発表したりする機会を設ける。

② 週に１度、日記指導を行い、自分の好きなテーマで文章を書く機会を設ける。

＜検証方法＞

❶ ノートやワークシートに分かったことや考えたことを書かせたり、発表させたりすることで話し手が知らせたいことを落とさないように聞くことができているか確認する。

❷ 書いた日記は、ファイルに貼り溜めていき、過程を振り返ることができるようにする。段落や「はじめ」「中」「終わり」の構成、順序、自分の考えを明確にして文章を書くことができているか定期的に確認する。

４．検証結果（成果と課題）　【年度末に記入する】

＜成果＞

・話を聞く環境を整えたり、話し合いの機会を多く設定したりしたことで、話をしっかりと聞いて理解しようとする力が付いてきた。

・毎週末、日記を書き、ファイルに貼り溜めていったことで、段落や「はじめ」「中」「終わり」を意識して文章を書くことができる児童が増えた。

＜課題＞

・話の大事なところを聞き落とす児童が複数人いる。

・これまでに習った漢字、片仮名、拗音などを正しく使って文章が書けていない児童が複数人いる。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・話の大事なところを落とさずに聞くための指導や活動を工夫する。

・多様な意見や考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして、いろいろな人と話し合う機会を設定する。

・文章を書く機会を設定する。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・身近な出来事を順序だてて、「はじめ」「中」「終わり」の構成で文章にして書くことができる。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　算数科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・令和７年度村学力調査では、「たし算」と「長さ・かさ」の領域が全国平均を上回っていたが、「１２０までの数」、「ひき算」、「３つの数の計算」、「形」、「時計」、「絵を使ったグラフ」の領域では全国平均を下回り課題が見られた。
・算数全般的において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。
・特に文章問題の場面を捉え、正しく式を立てる力を高める必要がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容
・記載なし
（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
【基礎基本が必要な児童への手だて】
・導入で単元に関係する学習内容をおさらいし、基礎的な計算や単位を正しく覚える。
・単元ごとに小テストを実施し、スキルタイムなどを活用して補習を行う。
・具体物の操作を通して、計算方法や図形の構成についての理解を深める。
・問題文に線を引き、情報を視覚的に整理する。
・ブロックを使い、具体的操作を取り入れ、数の合成、分解を繰り返し行い、数の感覚を養う。
・ブロックを使った操作活動や問題文を絵や図で表したり、問題場面を具体的にイメージさせる活動を多く取り入れたりしながら、問題解決へつなげていく。
【活用が必要な児童への手だて】
・自分の考えを図や言葉でノートに表現し、ペアやグループなどで発表する機会を設ける。
・教科書の練習問題だけでなく、補充の問題に取り組ませる。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを確認する機会を設ける。１単元の中でも、こまめに習熟具合をみとるようにする。
②ペアやグループによる学習で、半具体物や図、言葉を使って説明しあうことで、児童全員が「わかる」「できる」を体験できるようにする。

＜検証方法＞
❶ワークテストの知識と技能面で正答率８割を目標とする。２学期末までには思考を含めた３観点で正答率８割に到達させる。
❷自分の考えや、授業を通して分かったことなどをノートに書かせ、定期的に確認する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞
・児童の実態に合わせた教材や指導の工夫を行ったことで、児童の理解を深め、主体的に学習に取り組む力を高めることができた。
・授業の始めの５分間で計算プリントに取り組んだことで、筆算や九九の習熟を図ることができた。
＜課題＞
・問題文を正しく捉えることが難しい児童が複数人いる。
・既習内容を想起して、課題に取り組むことできていない児童が複数人いる。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・問題文を絵や図で表したり、問題場面を具体的にイメージさせる活動を多く取り入れたりしながら、問題解決へつなげていく。
・導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを確認する機会を設ける。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・問題文に線を引いたり、場面を絵や図で表したりして、問題場面を正確に捉え、立式することができる。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　生活科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・語彙が少なく、体験を通して分かったことや考えたことを書いたり、話したりして表現することが課題である。

・生活体験が乏しく、物の見方や考え方に偏りがあることが課題である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容

・記載なし

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・見学したり、観察したりするポイントをおさえてから活動する。

・児童の日常生活において身近な場所や物事を取り上げる。

・体験するだけではなく、分かったことやできたことなどをワークシートに記入して書く、伝える活動を増やす。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①視点を具体的に示し、より詳しく見たり聞いたりすることができるようにする。	❶活動に入る前に、個人のめあてを立てさせることで全員が同じ視点で物事を見られているか検証する。
②地域の関係機関と連携して学習計画を立てる。	❷地域の関係機関に働きかけ、働いている人の想いや、行われている仕事について、様々な方法でまとめられているか検証する。
③単元ごとのワークシートを作成し、書いたり伝えたりする活動を行う。	❸ワークシートから分かったことやできたことなど自分の考えを記入できているか検証する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

・めあてを明確にしたことで、意欲的に活動に取り組むことができた。

・地域と連携したことで、子供の興味・関心を高め、見方や考え方を広げることができた。

・児童の実態に合わせてワークシートを作成したことによって、自分の考えを書いたり、それをもとに友達に伝えたりすることができた。

＜課題＞

・体験を通して分かったことや考えたことを書いたり、話したりして表現することが難しい児童が複数人いた。

・分かったこと、感じたことを整理し、一番伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるための方法を考え、表現することが難しい児童が複数人いた。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・学習のめあてや個人のめあてを明確にする。

・地域と連携し、子供たちにとって身近な題材を取り扱うことで、意欲を高めたり、理解を深めたりできるようにする。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・視点を具体的に示したり、ワークシートを工夫して作成したりすることで、分かったことや考えたことを意欲的に表現することができる。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
・鍵盤ハーモニカ奏の技能に大きく差がみられ、意欲の低下につながっている。
・児童の興味・関心を生かし、「主体的に学習に取り組む態度」の力を伸ばしていく必要がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容
・記載なし
（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
【基礎基本が必要な児童】
・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。
・番号唱や指だけの練習などを取り入れ、スムーズに鍵盤楽器の演奏に入れるようにする。
【活用が必要な児童】
・考えた表現の工夫を試し、表現の印象に変化が生まれたことを価値付ける。
・ICT 視聴覚資料を活用し、自由な表現の発想を得られるようにする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①曲やフレーズごとに短く区切り、評価を行う。技能の習得と、スモールステップによる練習意欲向上を図る。	❶達成数やスピードを集計し、振り返りカードなどと合わせて意欲の変化を確認する。９割の児童が意欲をもって練習に取り組み、８割の児童が正しい指使いで演奏できるようにする。
②習熟度に応じてペアを組み、互いの演奏を聴いたり、指遣いを見合ったりする活動を取り入れ、児童同士の気付きや励ましを促す。	❷ペア活動中のやり取りや、指導的役割の変化を観察し、振り返りカードと合わせて意欲の変化を確認する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞
・学習進度を可視化したことで、意欲が向上した。
・児童同士の教え合い活動は効果的であった。
＜課題＞
・指遣いの定着は見られたが、それでも児童によっては技能面での課題を抱えている。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・器楽技能の低さが意慾の低下につながらないよう、教材選択や演奏形態を吟味する。
・歌唱と器楽の技能には課題がまだ見られる。ポジション移動と正しい音程で歌う技能の定着を図る。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・自らよりよい演奏を求め、自身と達成感を得ることのできる。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　図画工作科〉

１.「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・２年生は６学年の中で最も図画工作の時数が多い。多様な単元を取り扱うとともに、１年生で取り扱った道具や材料を使いこなせるよう、技能を応用をした授業をしたり、造形遊びをしたり、授業を通して豊かな情操を身に着けるようにする。
・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解し、つまずきなく楽しく活動できるようにする。
・お互いの作品の良いところを参考にしたり、以前学習したことを生かしたりすることができているので、さらにその力を高める。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容
・材料や道具などの使い方を掲示やICT機器を活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。
・活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・導入時の道具や材料の使い方の指導は口頭だけでなく実演し、説明の後個別指導をする。
・様々な材料を使う授業や、体全体を動かして表現する授業など、児童が意欲的に新しい表現に挑戦できるような授業を実施する。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①実物投影機で手元を映して道具や材料の使い方を実演し、解説をする。

②体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

＜検証方法＞
❶児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
１学期に基本的な技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。
❷児童や作品の観察。全児童がある程度新たな表現方法の面白さなどに気付けるようにする。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞
・基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。
・様々な材料を使った作品づくりなどを行い、表現方法の幅を広げることができた。

＜課題＞
・新たな自分の側面を発見したり、発想を広げたりする力をさらに伸ばしたい。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。

・導入や材料なども工夫し、児童が意欲的に取り組みながら発想を広げられるようにする。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・活動を楽しみながら、自分なりの発想をしたり、試行錯誤したりできる。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・学習のめあてを達成するためには、どのように運動に取り組めばよいのかを考えて活動する必要がある。
・「表現遊び」では、イメージを膨らませ、様々な動きで表現することに課題が見られた。
・友達の動きを見て、ポイントを見付けたり、やってみたりすることが必要である。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容
・記載なし
（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・学習のねらいを掲示し、視覚的に分かりやすくする。
・「紹介タイム」を設定し、よい動きを取り上げたり、全員で真似てみたりする機会を設ける。
・運動をする前に動きのイメージを十分に共有する。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①考えを交流できる場を設定する。	❶友達の動きを見たり、真似たり、考えを聞いたりすることを通して、自分の動きの幅を広げたり、運動のポイントを見付けたりすることができたか、ワークシートで振り返り、確認する。
②学習のめあてや流れを掲示し、明確にする。	❷学習のめあてや流れを理解して、意欲的に運動に取り組むことができたか、授業の最後に振り返らせ、確認する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞
・友達のよい動きを見付けたり、真似たりすることができるようになってきた。
・自分で考えた動きに意欲的に取り組むことができた。
＜課題＞
・友達のよい動きについて、相手に伝えることができる児童が少ない。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・友達と動きを見合ったり、伝え合ったりする機会を設ける。
・児童の様々な考えを取り上げ、多様な動きに取り組む。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・友達のよい動きをすすんで見付け、動きのこつを伝え合い、学びを深めることができる。

【別紙２】

〈授業改善推進プラン　令和７年度第２学年　道徳科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・登場人物の気持ちを多面的に想像したり、背景にある事象に目を向けたりすることに課題がある。
・教材、資料から、その道徳的価値を自分事として深く考え、実践、実行する力を身に付ける必要がある。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和５年度授業改善推進プラン記載内容
・記載なし
（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
・「自分だったら」と、自身に置き換えて考える場の設定をする。
・多様な考えを受け入れたり、多面的に物事を考えるための発問をしたりする。
・学校生活や日常を振り返させたり、場面を想像しやすいように具体的なものを提示したりする。
・場面の挿絵を提示したり、役割演技や動作化をしたりして考えをもたせやすくする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞
①児童の日常生活に関連させ、考える必然性や切実感のある発問づくりに努め、児童が物事を多面的・多角的に捉えたり、自己を見つめたりすることができるようにする。
②児童相互の考えを深めるために、目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫する。

＜検証方法＞
❶自分の考えをネームプレートやホワイトボードを活用して黒板に表示させたり、役割演技をして感じたことやワークシートに書いたことを伝え合ったりさせて、道徳的価値についてどのように考えたのか確認する。
❷考えをグループや全体で交流し、多様な考えに触れられるようにする。友達の話から考えたことについてワークシートに書かせ、検証する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞
・ペアやグループで話し合ったり、ホワイトボードを活用して考えを共有したことで、物事を多面的・多角的に捉えたりすることができた。
＜課題＞
・道徳的価値について考えたことから自分の経験を振り返り、自己を見つめることが難しい児童が複数人いた。

５．令和８年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・道徳的価値について考えたことを自分の経験に関連付けて、自己を振り返る機会を設ける。

６．令和８年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

・道徳的価値について学んだことを自分の生活に活かすことができる。